

3 LOH 症候群の“不定愁訴”とされた 諸症状に半夏白朮天麻湯が奏効した1例

秦野北クリニック¹⁾、東海大学 東洋医学科²⁾

駒井 好信¹⁾、駒井 悠子¹⁾、野上 達也²⁾、
新井 信²⁾

【緒言】LOH 症候群の症状は多岐にわたる。今回われわれは、アンドロゲン補充療法(ART)で改善せず、LOH 症候群による不定愁訴とされた諸症状が漢方治療により奏効した、比較的典型的な半夏白朮天麻湯証の1例を報告する。

【症例】50代男性、電気系工場勤務の管理職。主訴は1年前より続く性欲および性行動に対する意欲低下。以前は週に1回以上行っていた夫婦間の性交渉に対する意欲が明らかに低下したという。随伴症状として入眠障害・頭痛・肩こり・イライラ感を訴え前医受診。エナルモンデポー® 125 mg・2週に1回投与を6ヶ月継続したが症状が改善せず当院受診。身長 171 cm、体重 58 kg、既往歴に特記すべきことなし。前医/当院それぞれ初診時の Aging Males' Symptoms(AMS) スコア 56/54 点、フリーテストステロン 7.9/11.7 pg/mL であった。望診ではやや痩せ型、顔色不良でやや不安な表情。問診では、「性交渉頻度が少なくなっても配偶者が慰めてくれるが、こんな自分ではいつか嫌われてしまうのでは」という不安を抱いていた。随伴症状としてふわふわする感じのめまい・入眠障害・頭痛・肩こり・昼食や夕食後の眠気があったが、前医でこれらをまとめて「不定愁訴」と言われたことに納得いかない様子であった。これらの症状は台風など気圧の変化で増悪し、PCでの製品デザインや精密機器部品を扱う細かい作業中に最も強くみられた。脈診は沈・虚実中間。舌診では歯痕があり、白苔軽度。腹診で腹力やや虚、腹直筋やや緊張、腹部膨満なし、明らかな胃内停水はみられない。証に基づき半夏白朮天麻湯エキス剤 7.5 g/日を開始したところ、3週間ほどで諸症状が改善し、以前のような性生活と仕事が行えるようになった。治療開始後2ヶ月でAMSスコアは22点となり、2.5 g/日で症状改善後の状態を維持できている。【結語】LOH 症候群と診断され、ART が開始されたにもかかわらず症状が改善しない症例はときにみられる。このとき、東洋医学的に評価して証に基づく方剤を処方することで患者のQOL 向上に役立つことがある。